第５８号　2014年９月３０日

カトリック仙台司教区・ カリタスジャパン
東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫　編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今回は、障がい者自立センターかまいしから宿泊体験などについてご報告いただきました。また夏休みを利用して、上智大学ハンドベルクワイアの皆さんが、石巻及び米川ベースでハンドベル演奏会という形でボランティア活動を行い、多くの方に喜んでいただけたようです。

カリタス釜石では、新たな試みとして「さんりくわかめっ！」の販売を開始しましたので、ご紹介させていただきます。最後に、小松史朗神父がカリタス広島災害サポートセンターを訪問、現地視察いたしました。その様子をご報告いたします。

宿泊体験&宮古日帰り旅行

NPO 障がい者自立センターかまいし　　小林　隆

障がい者自立センターかまいしでは、この夏、新たな試みとして「宿泊体験」と「日帰り旅行」が行われました。

○宿泊体験

放課後利用されている子どもさん方の宿泊体験をやってみようかと、お家の方と相談し、今回の夏休み中に「事務所内に１泊する」という宿泊体験を行いました。大人の利用者さん方もお誘いし、スタッフと合わせて６名で泊まることになりました。

一日目、まずは流しそうめんからです。本来ならば竹を切り割り、行いたいところですが、今回は雨どいです。ですが見映えはどうあれ、そうめんが流れてくれば一気に気持ちが高鳴ります。みんなで準備をした分、余計においしい流しそうめんになりました。

午後は海辺に。市内の「水海海浜公園」という所が、震災後しばらくその爪あとを残していましたが、その後きれいに整備し直され、泳げるまでに回復しています。車いすで砂浜近くまで行くことが出来、皆さんで行くのは初めての海を楽しみ、お決まりのスイカ割で締めました。

夜は焼肉と花火というお昼から夜まで盛りだくさんのプログラムでしたが、それでも子どもさんたちは遅い時間まで楽しんでいました。きもだめしは時間切れで出来ず、これは来夏の楽しみというところです。代わりに大人の方たちの麻雀が始まり出しました。でも子どもの方もまだ眠くならない様子で、ペーパークラフトの自動車を作りたいとのこと。一体どれだけ消化すれば満足できるのだろうと考えているうち、こちらが先に眠ってしまっていました。

今回の感想は楽しかったとのこと、次も泊まってみたいそうです。大人の方々にとっても、子どものお世話を焼いているのは楽しいようで、お互いに楽しめる宿泊体験になったようです。

○宮古にお出かけ

きっかけは、ひとりの方が宮古の映画館でジブリ映画「思い出のマーニー」を見たいと、ご希望を出してくださったことに始まります。皆さんにも話題を出してみると、映画を見たい、宮古に行くなら浄土ヶ浜に行ってみたいなど、ご希望がたくさん上がって来ました。ならばみんなで出かけ、宮古に着いてからそれぞれの選んだメニューを楽しもうということになりました。

当日のスケジュール、映画館や浄土ヶ浜へのアクセスなど下調べや話し合いを重ね、当日を迎えました。利用者さん１１名、スタッフ６名の楽しい日帰り旅行です。

昼食は道の駅のレストランを予約しておき、ゆったりと海の幸を味わうことが出来ました。思えば、皆さん揃ってのこのような外食の機会は初めてのこと。お料理やお互い食べているところを写真に撮ったりと、何だか皆さんいつも以上に楽しそうでした。

映画館は、入り口付近にだけ階段がありますが、それも事前に分かっていたので、どのように移動しようか考えていた通り上手く行きました。

浄土ヶ浜は、震災後その年の内に遊覧船を復旧させました。リアス式ゆえに地形も険しい所ですが、エレベーターやスロープが設置され、車いすでのアクセスも容易に出来そうでした。遊覧船も、係りの方々が快くお手伝いしてくださいました。

こうして無事にそれぞれのメニューを楽しむことが出来ました。何年ぶりかで映画館に入った方、震災後初めて浄土ヶ浜を訪ねた方、みんなでの会食が思い出に残ったと教えて下さった方、とてもおなかいっぱいの日帰り旅行になりました。

～上智大学　ハンドベルクワイア～
ハンドベルの音色が架け橋に

カリタス石巻ベース　　氏家　真理子

石巻の地に優しいハンドベルの音色が響き渡りました。去る９月20日から21日の二日間、上智大学ハンドベルクワイアの皆さんがベースを含む３ヵ所で演奏会を行いました。

半年前の３月８日にも石巻ベース一階ホールにて演奏した皆さん。半年振りに再会したメンバーもいれば、初々しい一年生、そして経験者の加入など半年前とは違う顔ぶれではありましたが、つい半年前が昨日のことのように思い出されます。

夜行バスで到着した彼らを出迎え、早速午後に演奏を行う「みんなの夢広場（障害者短期入所施設）」へ出発。石巻ベースから車を走らせること約15分、未だ震災の爪痕が残る鹿妻地区にその施設はありま

す。中に入るとすでに利用者の方々や職員の皆さんが演奏を心待ちにしていました。

一つの音に一つのベル。そのベルたちを巧みに奏でるハンドベルメンバー。利用者さんは「アンパンマンマーチ」など心が弾む曲には自然と体を揺らし、職員さんもカメラ片手に手拍子をするなど演奏会を楽しんでいる様子でした。帰り際、ハンドベルメンバーに声を掛ける利用者さん。ハンドベル演奏がなければ関わることの出来なかった「場所」と「人々」、その“架け橋”となったハンドベルメンバーに感謝の気持ちでいっぱいでした。

二日目の９月21日は午前にカトリック石巻教会、午後に石巻ベース一階ホールでの演奏となっており、カトリック石巻教会ではハンドベルメンバーもミサに与りました。

実は前日の夕方に行われた分かち合いで、自分たちの不甲斐ない演奏に涙した一年生。そして上級生も満足した結果ではなかったと反省していたのです。半年前の演奏を知るスタッフは『(半年前に比べて)とても柔らかい音色だった、優しさがあった』と率直な感想を伝えました。本人たちはベストな演奏ではなかったと悔やみ、演奏を聞く側は素晴らしいと感じる。二日目はその「ズレ」を解消し、自分たちも楽しんで演奏することを目標にした彼らは、とても晴れやかな表情でベルを奏でていました。教会に響くハンドベルの音色は心地よく、観客の皆さんも自然と歌います。

カトリック石巻教会では、観客との距離が近い演奏会となりました。演奏後は会津神父様とギャリー神父様、そして信徒の皆さんと交流会を開き「被災地石巻」と寄り添う活動も行ったハンドベルメンバー。「また来年と言わずクリスマスに来てね」と嬉しい言葉に見送られ、ハンドベルメンバーは石巻での最後の演奏場所となる石巻ベースへ戻って来ました。

半年前、日帰り（米川ベース宿泊）での演奏だったこともあり、地元石巻の方々と関わる時間が少なかったハンドベルメンバー。そのため「演奏はもちろんですが、地元の方と直接関われる交流会を大切にしたい」と上智大学ハンドベルクワイアの代表である久米さんは話してくれました。

午後２時から始まった石巻ベース一階ホールでの演奏会。ハンドベルの音色に足を止め、初めてベース来訪した方やお友達を連れて聞きに来られた方もいました。「ふるさと」など曲目によっては震災を思い出し涙する人もいましたが、そういった石巻の方々と演奏後に開かれた交流会で寄り添うハンドベルメンバーは、演奏以外でも充実した活動になったのではないでしょうか。「振り返ることによって成長した」上智大学ハンドベルクワイアの皆さん。また再会できることを願いたいです。

＊上智大学ハンドベルクワイアの皆さんには、石巻ベースでの活動後、9月22日、23日は米川ベースで活動していただきました。

9月22日は、2つの仮設で演奏会を行いました。普段お茶っこで訪問している曜日とは異なる曜日でしたが、それぞれ約10名の方にご参加いただきました。「ふるさと」の曲の際には、涙を浮かべながら聴いてくださる方もおりました。

翌日は、特別養護老人ホームと老人福祉センターでの演奏会でした。特別養護老人ホームでは、1回30分程度の演奏が3つのユニットホールで全3回行われました。みんなで歌ったり、アンコールがリクエストされたり、集合写真を撮ったりとたくさんの方に喜ばれた演奏会となったようです。

「さんりくわかめっ！」お届けします！！

NPOカリタス釜石

皆さま、日頃よりご支援やご協力、ボランティアなどにお越しくださりありがとうございます。このたび、9月16日に平成26年度第2回理事会が行われ、「わかめ販売」について下期から半期ほど試行販売することが承認されました。風化の防止と被災地支援に一助となるようでしたら、来年度から本格的にスタートします。

わたしたちの活動は何十年という単位でビジョンを見据え、被災地復興支援事業を行わなければなりません。2011年の大震災から３年半が過ぎ、復興（災害）公営住宅が建設されはじめ仮設住宅から引っ越しをする段階に入っています。もちろん自立再建をされる方も多くいらっしゃいますが、様々な悩みや課題を抱えながら過ごされている方が多くいます。そのような中でカリタス釜石が支援を長く続けるには、助成金や寄付金だけで賄うことは難しくなってくるだろうと予想しています。そこで「わかめ販売」を通じて地元の産業を活性化させ、かつ自己資金の調達もしようと考えました。

東日本大震災により、釜石の地元産業も大きな痛手を受け、雇用状況も悪化しました。今回、わかめの仕入先としてお願いした伊藤商店さんも工場が被災し、経営者の方のご自宅も流されました。自立再建を決意し、息子さんも家業の見習い中、再建に向けて気持ちを新たに

しているところです。「わかめ販売」において、漁業者の生業、工場再建へのお手伝いをすることができ、カリタス釜石が柱とする被災地復興支援の一環となり得ます。また、カリタス釜石内のフリースペース「ふぃりあ」を利用する方々へ、簡単な発送業務を手伝っていただくことも視野に入れています。生活に張り合いをもち、生業へとつなげていけるのではと考えています。

皆さまのご協力をぜひお願いします。教会や学校へまとめて発送することができますので、バザーや学園祭などでご利用可能です。三陸のわかめは肉厚なため食感も楽しめます。さらに食物繊維やミネラルが豊富に含まれ、コレステロールの排出や血圧上昇を抑える効果があると言われています。酢の物や味噌汁だけではなく炒め物や天ぷらにもオススメです。

3.11の大震災を忘れることなく、少しずつ前へ向かっている東北の人々と共に歩んでみませんか。何よりも大自然のお恵みを皆さまにお届けし、召し上がっていただきたいと思います。

商品名：「さんりくわかめっ！」（湯通し塩蔵わかめ）３３０ｇ

価格：800円+送料

＊お申し込み・お問合せは、**NPO法人カリタス釜石**までお願いします。

FAX　0193-27-8070

メール　kamaishi311＋wakame@gmail.com

＊FAX･メールが使えない場合は、電話でも受付いたします。

電話番号：0193-27-9030

＊詳しくは、http://www.caritaskamaishi.com/をご覧ください。

広島視察

仙台教区サポートセンター　センター長補佐

小松　史朗神父

９月11日、広島視察に行って参りました。空港から車を借りて拠点の置かれている祇園教会へ直行し、ベースを担当する大西助祭からベースの様子を伺いました。

仙台サポセンから送られたベース立ち上げグッズ（カリタスのビブス、腕章、ステッカー等々）がすでに役割を果たしており、さらには、米川ベース立ち上げの大西助祭が采配を振るっている姿に頼もしさとともに「つながっている」感を強く感じ、大変嬉しく思いました。

その後、カテドラルの幟町教会に前田司教さまを訪問し、ちょうど良く司教さまが被災地に住む信徒の方と一緒に視察をするとのことでしたので、同行させて頂きました。

案内をして下さった信徒の方の家は、被災地の上の方に在り、土石流はご存知の通り山の上から下へ向かって流れるので、始まりの箇所は土石流の勢いもあり、流れの中にある家はなぎ倒されていて、３年前の東日本大震災の現場を思い出すような情景に、自然の猛威に為す術無しとの感想を改めて強く感じましたし、家の持ち主の安否と周辺の方々の今のご苦労を思うと心が千切れそうな思いでありました。

視察を終え、車で山を下る時に見覚えのある黄色のビブスの集団が目に入りました。「カリタス！」です。紛れもなく私たちの活動体、カリタスのボランティアでした。車を停めることの出来ない狭い路地でしたので、車の中から手を振るしか出来ませんでしたが、熱く込み上げるもので一杯になりました。さらには、石巻で活動をしていたあの顔、志津川、米川で活動していたあの顔と知っている方が数人いて、本当に嬉しく思いましたし、ここでも強く「つながり」を意識させられました。

大西ベース長の話では、広島市の社会福祉協議会にはすでにカリタスのボランティアの情報が届いていて、他の団体とは別に信頼して活動を任せられることがあったそうです。これも偏に東北の被災地でカリタスのボランティアがビブスを襷代わりに毎日活動をして下さった尊い実りであることを本当に嬉しく感じました。

日本は自然災害が多い国であると同時に、都市部の災害に対する備えは万全とは言えません。また何処かで必ず起こる災害にも、カリタスとしてのボランティア活動が、その地のカトリック教会と一体となっての活動として必要であることを感じる視察でした。

《お知らせ》

カトリック広島教区は「カリタス広島災害サポートセンター」を設置、ボランティア受け入れと募金の受付を行ってきました。

災害発生から１カ月以上が経ち、活動は収束に向かっています。

それを受けて、「カリタス広島災害サポートセンター」もボランティア登録及び「祇園ベース」を10月12日（日）で終了いたします。

同様に募金も10月12日をもって終了いたします。ご協力ありがとうございました。なお、お集めになっている募金は、10月末日までにご送金くだされば幸いです。

＊カリタスジャパンでの募金受付は、9月30日をもって終了しました。

たくさんのご支援をどうもありがとうございました。